

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：まちづくりと公共交通の再生（1）（1/2）	
日付： 6月 13日（土）曜日，セッション時間： 14:50 ～16:20	
オーガナイザー・司会者名（所属）：土井勉（神戸国際大学）	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <p>まちづくりの課題と交通の課題とは，密接に関連している．魅力あるまちづくりを推進するためには，豊かな「公共領域」の形成が望まれ，それに対して交通サイドからは公共交通を充実することが重要である．</p> <p>こうした認識は世界的にも基本的な認識となっている．まちづくり，公共交通再生は追い風の状況となっている．しかし，一方で，新型インフルエンザの影響，高速道路 1,000 円化の影響などは，公共交通への逆風となっている．</p> <p>持続可能なまちづくり，持続可能な公共交通実現に向けて，合計 17 本の多様な論文がエントリーされている．幅広い視点からの議論を期待したい．</p>
	<p>（147）大藤武彦（（株）交通システム研究所）：持続可能なまちと交通をめざした人材育成の実践としての「NPO 法人再生塾」の試み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この塾は 2007 年に故北村隆一先生を塾長として発足し，活動の幅を広げてきている． ・講義形式だけでなく，ケースを取り上げチームで実践的な研究を行い，成果は実現しているものもある．
	<p>（148）岸 雅之（持続可能なまちと交通をめざす再生塾）：都市部におけるコミュニティバスの活用方策に関する議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを対象とした再生塾での活動の報告． ・Q.事業採算性の検討内容？ ・A:バス運行時間を単位として，運行費用等と利用者数との関係から事業成立性を検討した．
	<p>（149）山本信弘（京都府）：「嵐電」をケーススタディとした持続可能な中小鉄道の活性化計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小鉄道の活性化を対象とした再生塾での活動報告． ・これまで，事業者単独ではできなかった体系的な活性化方策の提示により，既にいくつかの提案が実現している．
	<p>（150）山見侑輝（立命館大学大学院）：地方都市魅力向上を目指した地域バス交通システム整備に関するシステム分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設開発とバス運行をパッケージ化することの効果についての研究． ・Q.商業施設単独による集客効果など，施策ごとの効果測定とパッケージ化することとの差についての検討は行われたのか？ ・A:一体的な施策として検討しているが，個別の検討は行っていない．今後の課題としたい．

<p>(151) 富田安夫 (神戸大学大学院) : 住吉台くるくるバスの費用構造に関する分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主運行型コミュニティバスで黒字化を達成している住吉台くるくるバスを対象として、その費用構造と黒字化している背景についての分析. ・人件費が主要な費用となり、路線設計を適切に行うことが黒字化に重要となる.
<p>(152) 土屋樹一 ((株) 駅レンタカー関西) : バス交通との関係を考えた都市型レンタサイクルに見る駅勢圏の特性と今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市型レンタサイクルの利用者分布と路線バスのサービス水準との関係についての考察. ・Q: 駅リンクの関東方面への展開の可能性はあるのか? ・A: 東武沿線などは大いに可能性があると思定できる. ・Q: 表では自動車からの転換だけでなく、バスからの転換もあるが、その意味は? ・A: 地域特性もあり、バスサービスが不十分なところだという事情があると考えられる. ・Q: 都市型レンタサイクルを拡大すると上で行政のサポートで期待できるものは? ・A: 行政が主体になるのは、あまり良くないと思う。むしろ、側面支援が良いと考えられる.
<p>(153) 水飼和典 (東京都) : 輸送機関別にみる都市交通インフラの国際比較及び総合力評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的に評価可能な指標を用いて、東京、パリなどの諸都市の国際比較を通して、国際競争力を持つための整備優先順位を考察. ・Q: 評価ポイントの評点の方法は? ・A: 9都市の比較を行った。その際 Max を 10 点、Mini を 1 点としてその間を按分してポイントとした.

※発表件数に応じて適宜追加してください。